

～私たちの教育・保育をもっと楽しく！～

世田谷区教育・保育実践コンパス



【案】

令和3年11月4日

はじめに

- 乳幼児期は生涯にわたる生きる力の基礎を培う重要な時期です。
- 世田谷区では、子ども・子育てにあたたかい地域づくりを進めるとともに、平成 29 年には「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」を策定するなど、乳幼児期の教育・保育の充実を図ってきています。
- 子どもたちが現在を最もよく生き、生涯にわたる人格形成の基礎を培うにあたっては、心に響く様々な体験や人との関わりを重ねる中で、乳幼児期にふさわしい生活を営み、心豊かに成長していくことが大切です。
- 区内の全ての子どもが、多様な個性を尊重したインクルーシブな教育・保育の考え方の下で、豊かな経験をしながら成長していくことができるよう、区内の教育・保育関係者の皆さんに大切にしていきたい基本的な方針を「～私たちの教育・保育をもっと楽しく～ 世田谷区教育・保育実践コンパス」として策定しました。
- 本年 12 月には教育・保育の充実に向けた拠点として、「乳幼児教育支援センター」が設置されます。区の実践と連携しながら、全ての関係者の皆さんが、この「実践コンパス」を様々な形で活用していただき、実践の充実につなげていただければ幸いです。
- 最後に、この「実践コンパス」策定に当たり、議論を重ねていただいた実践者の代表、学識経験者、各行政担当者の皆様とワークショップや園内取組みを通じて声をお寄せいただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

2021 年〇月

世 田 谷 区
世田谷区教育委員会

目 次

世田谷区の実践と世田谷区教育・保育実践コンパスとは

- 1 私たちがめざす乳幼児期の教育・保育の基本・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○

- コラム：発達のプロセスを捉える基本的な視点

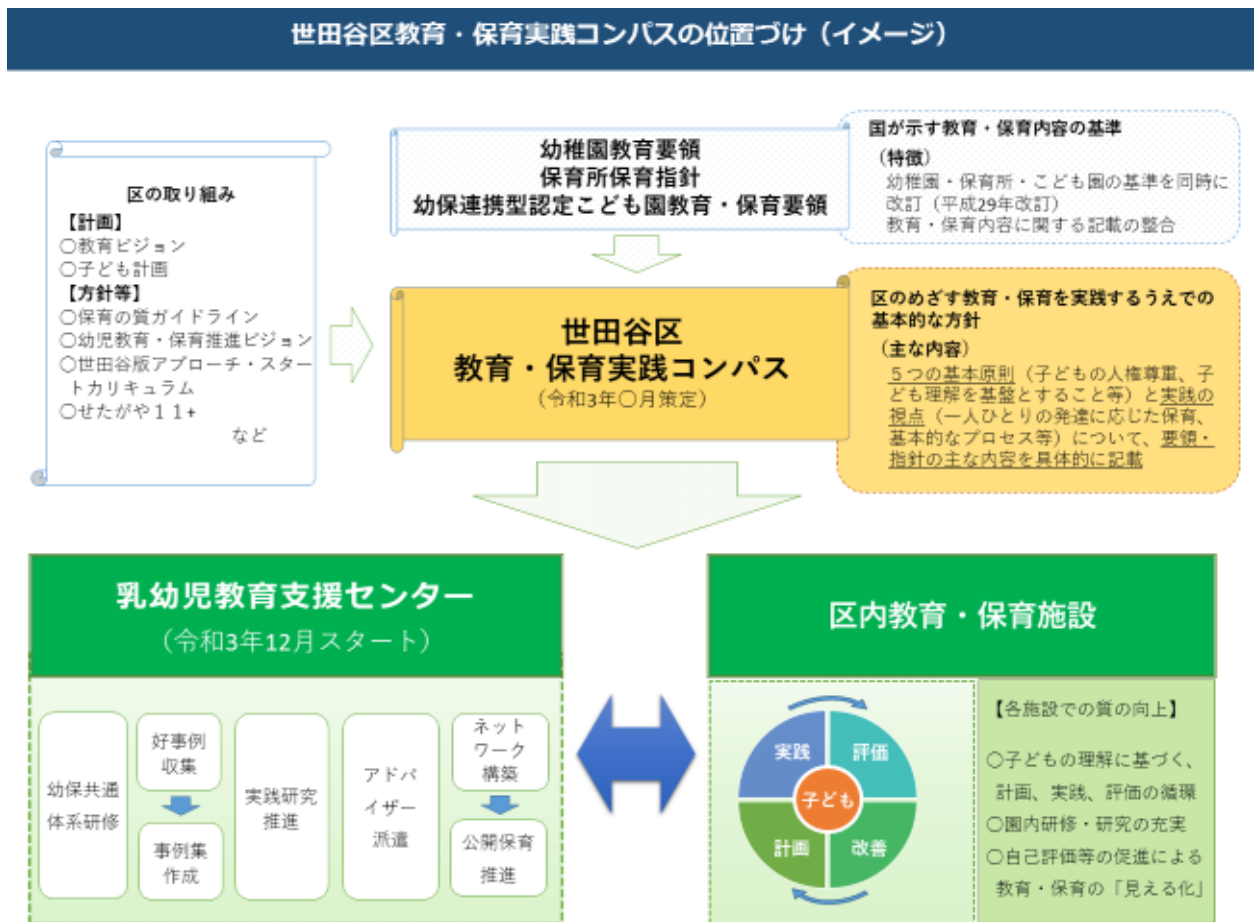
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○

- 2 実践の視点（例）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○
 - (1) 大切にしたい子どもの経験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○
 - (2) 子どもの力を育む保育のプロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○
 - (3) 教育・保育をつないでいく・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○

- 3 教育・保育の質の向上に向けた取り組みの充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ○

【世田谷区教育・保育実践コンパスとは】

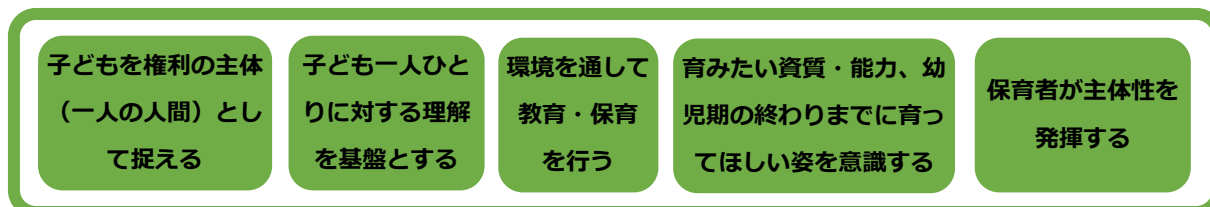
世田谷区では、これまで乳幼児期の教育・保育の質の向上に向けて様々な取り組みを行ってきました。今後さらに、区の全ての子どもが豊かな経験をしながら成長していくことができるよう、区内の全ての教育・保育の関係者が、施設の種別を問わず共有すべき基本的な方針を明確にし、実践の充実を図っていくためのツールとして、この「世田谷区教育・保育実践コンパス」を作成しました。



《世田谷区教育・保育実践コンパスの構成と主な内容》

1 私たちがめざす乳幼児期の教育・保育の基本

区内全ての教育・保育施設が実践を進める上で基本となる理念・原則を記載



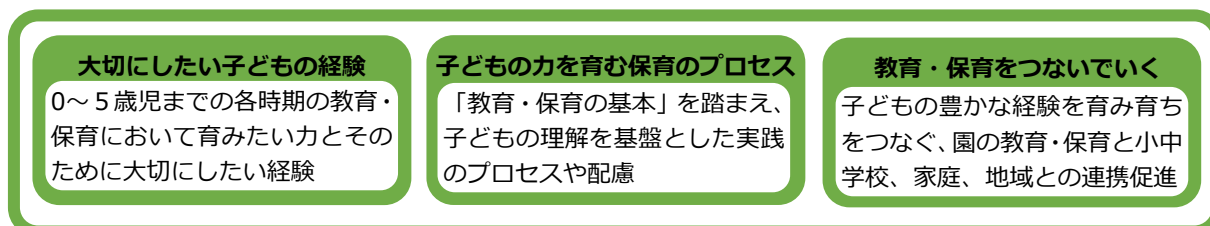
コラム：発達の過程を捉える基本的な視点

乳幼児期の教育・保育を行うための発達を捉えるポイントを記載

発達とは、乳幼児期の発達と学びの概要について

2 実践の視点（例）

発達に即した教育・保育とその過程、家庭や地域と連携した実践について記載



3 教育・保育の質の向上に向けた取組みの充実

「実践コンパス」を活用した、関係者の協働による取組みについて記載

研修の実施、研究の促進、専門人材の派遣、関係者ネットワークの充実等

《「世田谷区教育・保育実践コンパス」の活用について》

各施設が特色ある教育・保育の実践を充実させていくために、本書が、以下に示すような、様々な場面で活用されることを想定しています。

○各園で 保育の振り返りや計画づくりの参考、教育・保育の評価の視点、園内研修のテーマづくりや対話のきっかけ など

○地域で ワークショップや公開保育の協議の視点の参考、小中学校との連携 など
世田谷区は、乳幼児教育支援センターを起点に、研修の充実やアドバイザーの派遣、関係者がつながるための場づくりなど、多様な支援を行っていきます。

1 私たちがめざす乳幼児期の教育・保育の基本

- ・子どもは、一人ひとりが今を生きる主体であるとともに、未来の「希望」です。子どもを一人の人間として捉え、その権利を尊重することは、子どもに関わる全ての大人に求められる、欠かすことのできない原則です。

➡ 子どもを権利の主体（一人の人間）として捉える

- ・子どもは、一人ひとりが独自の個性をもった存在です。それぞれの特性、発達状況を踏まえた教育・保育を実践するためには、その子のよさや可能性を捉えていくことが求められます。

➡ 子ども一人ひとりに対する理解を基盤とする

- ・子どもは乳幼児期からの生活で出会う様々な環境に自ら関わることを通じて成長していきます。各園は、子どもが生き生きと世界を広げていくことができるよう、環境を通して教育・保育を行うことが基本となります。

➡ 環境を通して教育・保育を行う

- ・乳幼児期の教育・保育は、生きる力の基礎を培うために、この時期にどのような資質・能力を育てていくか、育まれた力がどのような姿として表れていくのかを意識し、見通しをもった実践が求められます。

➡ 「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識する

- ・子どもの園生活が豊かで、自己を十分に発揮できるものとなっていくためには、保育者自身が生き生きと保育を楽しみながら、主体性を発揮し、専門性を高めていくことが大切です。

➡ 保育者が主体性を発揮する